

平成23年度  
発生予察情報

## 特殊報第1号

平成23年7月26日  
埼玉県病害虫防除所  
(TEL:048-525-0747)

### クロメンガタスズメ幼虫によるトマト・ナス等の 被害の発生について

クロメンガタスズメは、スズメガ科の大型の蛾の仲間であり、近年、県内で増加しています。幼虫はトマト、ナスなどの葉を食害し、大型で食欲旺盛であることから、大きな被害を生じる恐れがあります。

\* 特殊報：新奇な有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発生消長に特異な現象が認められた場合に発表するものです。

1 病害虫名 クロメンガタスズメ (*Acherontia lachesis*)

2 発生経過

- (1) 本種は九州でも希な暖地系のスズメガであったが、1990年代から増加し、分布を広めた。本県では、平成21年8月17日に北本市で初めて成虫が確認され、当月末日までに川口市、北本市で数個体の成虫が確認された。また、幼虫については同年9月20日に川口市、9月21日に朝霞市、9月23日にさいたま市で相次いで確認された。
- (2) 平成22年の夏には、県南部～西部地域の各地で幼虫によるナス、トマトの被害が発生し、県西部地域の市町村への被害相談件数は十数件となった。
- (3) 平成23年に久喜市で屋外での越冬が確認された。なお、近県では平成22年に茨城県で本種によるタバコの被害が確認されている。

3 形態及び発生生態等

(1) 形態

成虫の前翅は49～57mm程度。胸部の背面に面型(メンガタ)の斑紋がある。面状部の周囲は著しく赤褐色の毛が多い。幼虫の体色は緑色、黄色、褐色など変化に富む。尾角の先端が著しく湾曲することから、他種との幼虫での区別が容易である。

(2) 生態

年に1回、夏～秋に発生し、蛹で越冬する。幼虫の食草は、ゴマ科(ゴマ)、ナス科(ナス、トマト、ジャガイモ、チョウセンアサガオ、タバコ、クコ)、マメ科(フジマメ)、ヒルガオ科(セイヨウアサガオ、リュウキュウアサガオ、アメリカンブルー)、ノウゼンカズラ科(キササゲ)、キリ科(キリ)、アサ科(アサ)、クマツヅラ科(クサギ)などの記録がある。

### (3) 被害

幼虫はトマト、ミニトマト、ナスなどの葉を食害する。なお、幼虫は大型のため1個体の発生であっても、株全体の葉が食い尽くされる被害となるが、果実は食害しない。



終齢幼虫とナスの葉の食害痕、糞



終齢幼虫の側面（尾角の湾曲が特徴）



終齢幼虫の背面



成 虫

## 4 防除対策

- (1) 地上に落ちている幼虫の糞を目安に、発見に努める。
- (2) 幼虫を発見した場合は、取り除き捕殺する。
- (3) 現在のところ本種に対する登録農薬は無いので、上記の物理的防除を徹底する。